

長野県図書館協会
デジタル版 小中学校図書館部会だより
第155号（令和元年度）

令和元年度小中学校図書館部会の活動を振り返って

長野県図書館協会小中学校図書館部会 副部会長 浅井 かよ子

本年度の長野県図書館協会小中学校部会では、「学びと心のより所となる学校図書館一学校内・外の連携による読書・学習・情報センター機能の構築を目指して」のテーマのもと活動を行いました。

小学校では、来年度の新学習指導要領本格実施を目前にして、子どもたちの学びを広げ深める場として機能することを願って、本年度も県大会をはじめ各地区大会で実践発表・授業公開や講演会などが実施され、参加者の研修を深めながら大きな成果を得ることができました。

部会では、司書教諭、学校司書、推薦課題図書選定、読書感想文・感想画コンクール、出版物利用促進、部会だよりの各部において実践してまいりました。今年も県下各校より数多くの読書感想文・感想画が寄せられました。各支部の取り組みならびにご指導いただいた先生方に感謝申し上げます。

11月9日（土）には第69回長野県図書館大会が東御市で開催されました。大会テーマ『地域と共に知り、共に創る』のもと、午前中は、東御市文化会館サンテラスホールにて開会式と講演会、午後は、東御東部中学校にて分科会が行われました。講演会では広沢里枝子先生に「社会がつくる障がい 社会がなくせる障がい ～視覚障がい者の立場から、お話と越後ごせ詩～」の演題でお話をいただきました。「障がいをつくっているのは私たちなのだと気づきました」「誰もが使いやすい図書館にするためには、その人の立場に立って対応することが大切だということが実感できました」「広沢さんの力強い生き方に触れ自分の心が広がった気がします」「『あきらめることは自分を差別すること』という言葉に感銘を受けました」など、参加者の皆様から多くの感動の声をいただきました。

午後の分科会では、学校外の各機関との連携、司書教諭と学校司書の連携の在り方、学習センター・情報センターとしての機能を推進するための取組など、テーマに沿って、レポート発表や実践発表、ワークショップ、グループ討議などが活発に行われました。

また、各地区の学校図書館教育研究大会は、北信地区が更埴支部の南条小学校・坂城中学校、中信地区が木曽支部の福島小学校・木曽町図書館、南信地区が下伊那支部の阿智第二小学校・阿智中学校をそれぞれ会場に行われ充実した研修の場となったことが報告されました。

最後になりましたが、本年度の長野県図書館協会小中学校図書館部会の活動にご協力いただきました皆様にお礼を申し上げますとともに、令和2年度第70回長野県図書館大会（安曇野大会）へのご協力をお願いいたしまして活動報告といたします。

支部だより

中高支部

中高支部代表 中野市立永田小学校 加藤 善彦

中高支部は、中野市、山ノ内町、木島平村、野沢温泉村の小学校16校、中学校7校、計23校から成ります。(中野市内の小学校統合にともない、今年度末に3校減、来年度末には更に1校の減となります。)

1 活動内容

- (1) 図書館主任の会 5月10日(金) 中野・下高井教育会館
- (2) 中高図書館協会定期総会・研修会 6月13日(木) 中野市立図書館
- 参加者27名
 - 研修会講師：堀内 京子 先生
 - 内容：図書館に置きたい本の選書について
 - 参加者の感想から：図書館に置きたい本や残しておきたい本、子どもたちに紹介したい本など具体的に分かりやすく紹介していただきました。その視点を大事にして、取り組んでいきたいと思えます。
- (3) 企画研修 2月28日(金) 中野市立図書館
- 講師：中野市立図書館司書の皆様
 - 内容：図書館環境の整備
- (4) 図書館大会への参加
- ①北信地区学校図書館教育研究会 10月25日(金) 参加者6名
 - ②第69回県図書館大会(上小大会) 11月 9日(土) 参加者8名
- (5) 第42回長野県読書感想文コンクールへの参加
- 支部審査 10月 4日(金) 中野・下高井教育会館
 - ・応募総数 496編(小学校133編 中学校363編)
 - ・県審査結果 金賞7編 銀賞2編 銅賞3編

2 活動を振り返って

- 定期総会・研修会は、中野市立図書館・山ノ内町立蟻川図書館のご協力のもと、図書館に関わる先生方にとって有意義な研修となった。図書館教育係や司書の先生方の望む研修を今後も取り入れていきたい。
- 読書感想文コンクールは、各校の協力で円滑に進めることができた。夏休みの関係で支部締め切りを昨年度より1週間遅くし、先生方に指導していただく時間を確保した。
- 令和3年度の第71回県大会開催に向けて準備が始まる中、各学校間の連携を図り、学校図書館の役割やあり方について考えを深めていきたい。



上伊那支部は上伊那郡下(伊那市・駒ヶ根市・辰野町・箕輪町・飯島町・南箕輪村・宮田村・中川村)小学校37校、中学校14校、計51校で組織されている。各図書館関係諸団体と連携しながら活動を進めてきた。

1 活動内容

(1) 第42回長野県読書感想文コンクール応募

支部審査日 9月17日(火) 上伊那教育会館 審査委員6名

応募総数 64編(小学校44編 中学校20編)

県送付作品数 27編(小学校19編 中学校8編)

(2) 上伊那郡学校図書館司書の会

第1回… 5月30日(木) 伊那市立図書館 役員選出、年間計画立案、ライブラリーファイル

第2回… 7月9日(火) 伊那中学校 ICT講習会、調べ学習を支える図書館づくり

講師：伊那市ICT支援員 川島玲子先生

高遠中学校 足助武彦先生

第3回… 10月8日(火) 伊那市立図書館 講演会

講師：塩尻市読書推進アドバイザー 松本美幸先生

第4回… 2月28日(金) 伊那市立図書館 ライブラリーファイル実践発表、年間活動報告

〔その他〕

小中高連絡会 12月17日(火) 伊那市立図書館 児童会・生徒会活動における司書の役割

各支会司書の会 年4回程

(3) 図書館大会への参加

第30回北信越地区図書館研究大会(新潟市) 9月27日(金) 実践発表2名

第69回長野県図書館大会(東御市) 11月9日(土) 参加者20名

南信地区学校図書館教育研究会(阿智村) 11月15日(金) 参加者6名

2 活動を振り返って

- ・夏休み明けの担任の先生の負担を考慮し、読書感想文審査日を少し遅らせていきたい。応募要項及び応募規定の見直しの要望もあがっている。
- ・上伊那教育会学校図書館教育委員会が長野県読書感想文応募に関わってきているが、来年度より学校司書も加わり、図書館の学習センター機能としての役割について研究を進める方向である。
- ・司書の先生方の熱心な研修や取組によって、学校図書館が運営されていることに感謝しつつ、子どもたちの図書館利用について各校に発信していきたい。

図書館職員等ステップアップ研修 参加報告

音をテーマとした「理科読」研修会 参加報告

～NPO法人ガリレオ工房理事 土井美香子さんをお迎えして～

佐久市立望月小学校 飯島 佳月子

昨年7月29日にステップアップ研修として開かれた上記研修会に参加し、土井さんのお話を伺うとともに、模擬授業を見学する機会に恵まれました。

講義は『からだのなかでドゥンドゥンドン』（福音館書店）の読み聞かせから始まりました。動物固有の鼓動の違いがわかるように読み上げる土井さん。理科読の場合、何のためにその本を読むのかを意識すること、1つのテーマに沿って5,6冊読み聞かせをすると、そのテーマを読み取れるようになるというお話に目を開かれました。

今回のテーマは、小学3年生の単元「音」についてでした。身近な材料を使った実験に、関連する絵本の読み聞かせを織り交ぜながら、音の様々な性質を確かめていきます。実験を通じ、普段私たちは音を頼りに様々なことを判断し、その性質を利用していることに気付かされます。「理科が苦手な人は？」という土井さんの問いかけに、元気よく手を挙げた私も、実験の面白さに引き込まれていきました。

2日目の模擬授業は、学校も学年も様々な子どもたち16名を迎えて行われました。授業は、絵本『アフリカの音』（講談社）の読み聞かせから始まり、実際に叩く、こする等で音が出ることを皆で確かめた後、講師の「なぜ音が出るの？」との問いに「振動するから」という答えが返ってきます。ビニール袋や紙コップなどを使った実験を経て、この知識が子どもの中で経験に変わっていきます。さらに、振動は空気以外でも伝わるかどうかを紙コップと糸を使って確かめた後、『いとでんわ』（国土社）の読み聞かせで理解を深めます。初めは緊張していた子どもたちの表情が、実験や読み聞かせを重ねる度に柔らかくなり、得られた結果に目を輝かせます。土井さんが講義の中で話されていた「言葉と体験が結び付いた時、『わかった！』という実感が得られ、知識として身につけてゆく」ということを目の当たりにしたと感じました。

科学を本からも学ぶことにより、子どもが体験・実験したことを言葉にし整理することができる、それが論理的思考につながるという『理科読』の意義を、2日間の講義と実践を通して体感することができました。私たち学校司書には、子どもたちの好奇心を育む優れた科学読み物などを選ぶ目を養うこと、そうした資料を自由に手に取ることのできる場所として、学校図書館の資料の充実を図っていくことが求められていると感じました。沢山頂いた貴重な気づきを、今後活かしていきたいと思えます。



（県図書館協会小中学校図書館部会よりお願い：児童の写真を掲載していますので、正規の目的以外でのご使用はお控え下さいますようお願いいたします。）

読書感想文コンクール及び読書感想画コンクールの審査結果から

担当幹事 長野市立浅川小学校 関川 あかね

令和元年度、第42回長野県読書感想文コンクールについて報告します。各学校から応募された作品について各支部審査・県審査を行い、次のような結果になりました。

◇応募校数：354校	◇応募作品数：3848編
◇県入選（県応募）作品数：563編	◇県入賞作品数：184編
◇中央審査会応募作品数：8編	※小・中合計数で表示

応募校数は昨年度と比べ、若干増えましたが、応募作品総数は、1500編以上の大幅な減少となりました。昨年、一昨年と5000編台と伸びてまいりましたが、再び3000編台となりました。その要因については、各支部、各校にお聞きしながら分析してまいりたいところです。

本年度もお忙しい中を、各支部・各校で呼びかけ、取り組んでいただきありがとうございました。また多くの感想文を精読し、多くの時間を費やして厳正に審査いただいた支部・県審査委員の先生方に厚く御礼申し上げます。

県審査にあられた委員の先生方からは、「本を読むことが大好きという思いがしっかり伝わってくる作品があり安心した。特に、三類の作品では、自分の素直な思いが伸び伸びと書けているものが多かった。」「自分の経験を想起し、本の内容と重ね合わせており、その子の性格や人生が見え隠れしてよかった。」「本を読む前と読後と比較し、考えの変容について書けているものがよかった。印象に残った場面や言葉、人物について幾つか挙げ感想を書く生徒が多かった中で、主題と関連させて書けているものは総合点が高く、改めて主題を捉えて書くことの大切さを勉強させてもらった。」等の貴重な感想をいただきました。

一方で、「内容面では優れているのに、字数が足りない、原本でなくコピーで応募されている等の審査基準を満たさないため入賞できなかった作品があり、非常に惜しいと感じた。」というご指摘もありました。これは毎年出される課題です。事務局でも分かりやすい応募要項の工夫に努めてまいりますが、各校では、ご指導の際に字数を含め、要項に沿った応募を心がけていただきますことを引き続きお願いいたします。併せて、今後も子どもたちへの読書の啓発、意欲的な感想文の応募を賜りますようお願いいたします。

また、令和元年度の読書感想画コンクールについては、各学校から応募された作品について県審査を行い、次のような結果になりました。

◇応募校数：19校	◇応募作品数：413点
◇中央コンクール応募作品数：8点	※小・中合計数で表示

本年度の応募校は昨年度より10校少ない19校となり、応募作品数は、昨年度の787編から減少して413編となりました。しかし、大幅に応募数が伸びた昨年度を除きますと、ここ数年、応募数はほぼ横ばいであり、読書感想画コンクールが浸透し定着してきたと感じます。

応募作品については、学級単位で取り組んでいただいたり、部活動制作として取り組んでいただいたり、担任、顧問の先生のご指導により、数多くの力作が寄せられました。また、版画や貼り絵など多彩な表現方法が取り入れられ、子どもたちの想像力が伸び伸びと発揮された個性あふれる作品が見られました。審査にあたっては、子どもたちによって再現された作品世界を存分に楽しませていただきました。

最後に、両コンクールに応募していただいた児童生徒の皆さん、応募に際してご尽力いただいた皆様に重ねて感謝申し上げます。今後も、両コンクールが、子どもたちの読書生活を益々豊かにしていく一助となりますよう努めてまいります。

部会だよりは
長野県図書館協会HP
でもご覧いただけます。

長野県図書館協会 小中学校図書館部会だより 第155号
発行日 令和2年3月13日
発行者 長野市若里1-1-4 県立長野図書館内
長野県図書館協会 小中学校図書館部会(代表 宮尾弘子)